

中小企業動向 トピックス

中小企業の景況は、持ち直しの動きがみられる

「全国中小企業動向調査（中小企業編）」結果概要

〔2013年4－6月期実績、7－9月期および10－12月期見通し〕

当公庫ではお取引先のご協力を得て、2013年6月に全国中小企業動向調査（中小企業編）を実施しました（調査対象13,450社、有効回答企業数7,678社、回答率57.1%）。

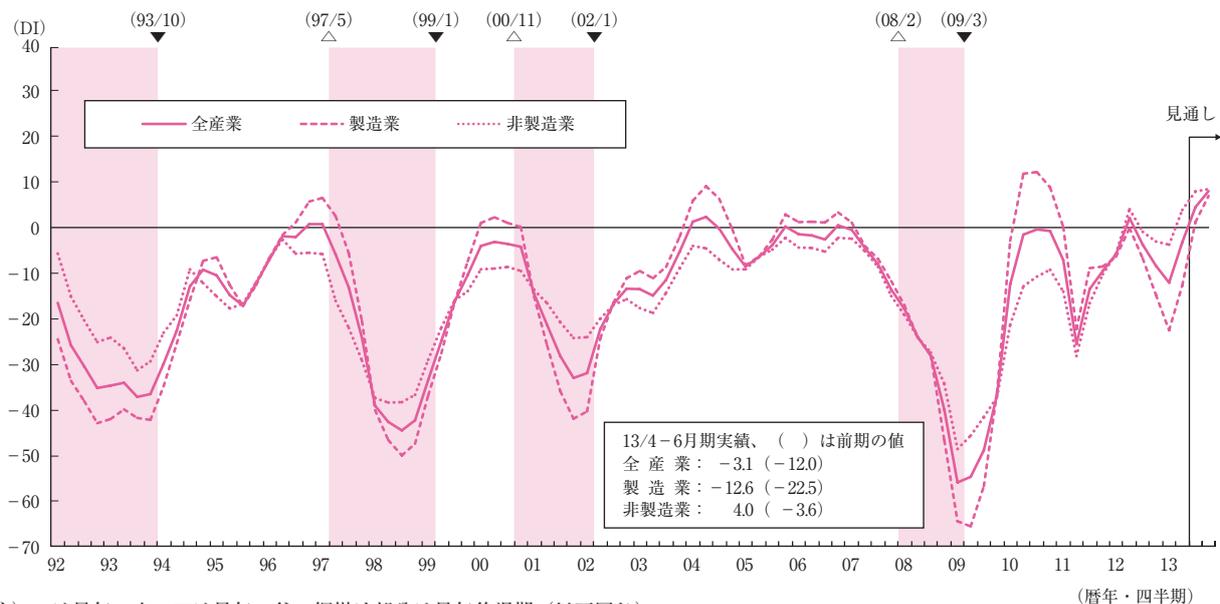
低下が続いていた中小企業の業況判断DIは、4期ぶりに上昇し、先行きについても上昇する見通しとなっています。中小企業の景況は、持ち直しの動きがみられます。

上昇に転じた業況判断DI

今期（2013年4－6月期）の業況判断DI（全産業）は、前期（2013年1－3月期）から8.9ポイント上昇し-3.1となりました（図表-1）。上昇は4期ぶりです。製造業は前期から9.9ポイント上昇し-12.6に、非製造業は7.6ポイント上昇し4.0になりました。

先行きについてみると、全産業で来期（2013年7－9月期）は今期から7.7ポイント上昇し4.6に、来々期（2013年10－12月期）はさらに上昇し8.2になる見通しです。中小企業の景況は、持ち直しの動きがみられます。

図表-1 業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」－「悪化」企業割合、季節調整値）



(注) △は景気の山、▼は景気の谷、網掛け部分は景気後退期（以下同じ）。

(暦年・四半期)

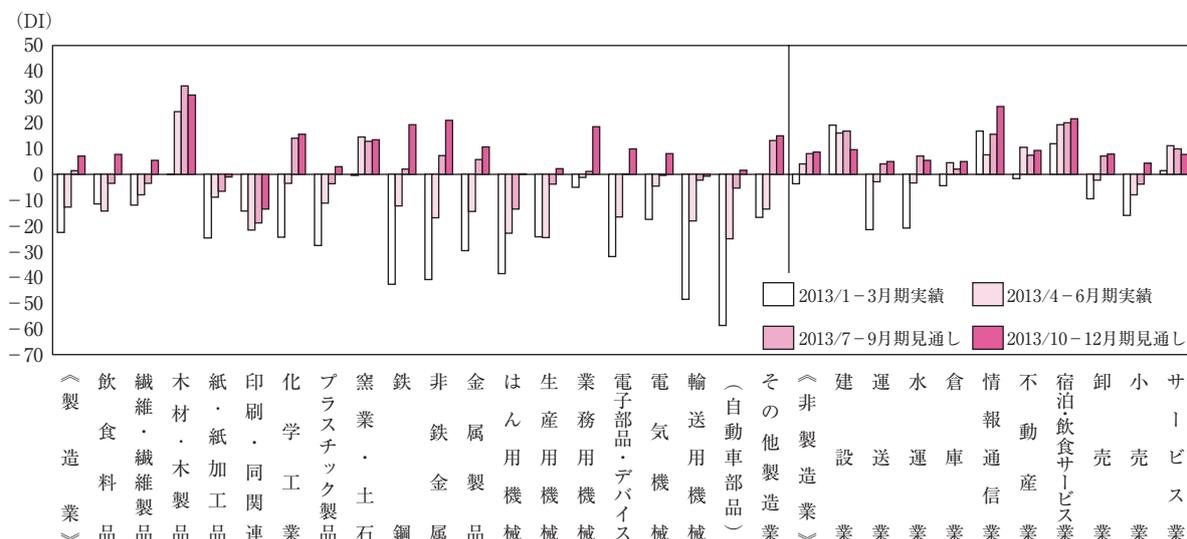
建設関連をはじめ多くの業種で上昇

今期の業況判断DIを業種別にみると、製造業は、多くの業種で上昇し、建設資材関連の木材・木製品や窯業・土石はプラス水準となりました（図表-2）。一方、機械・金属関連など輸出ウエイトの高い業種は、依然マイナス水準から抜け出せていません。中国をはじめとした新興国や欧州の経済停滞が影響しているとみられます。また、円安により仕入価格が高騰するなかで、飲食料品、印刷・同関連のDIは低下しました。

非製造業は、多くの業種でDIが上昇し、建設業、不動産業、宿泊・飲食サービス業などでプラス水準となっています。復興需要をはじめとした公共工事の増加に加え、住宅やマンションの着工が好調であること、株価上昇による資産効果から消費マインドが改善してきたことなどが背景にあります。

先行きについてみると、製造業、非製造業ともに多くの業種で上昇し、金属関連の業種など製造業でもプラス水準となる業種が増える見通しとなっています。

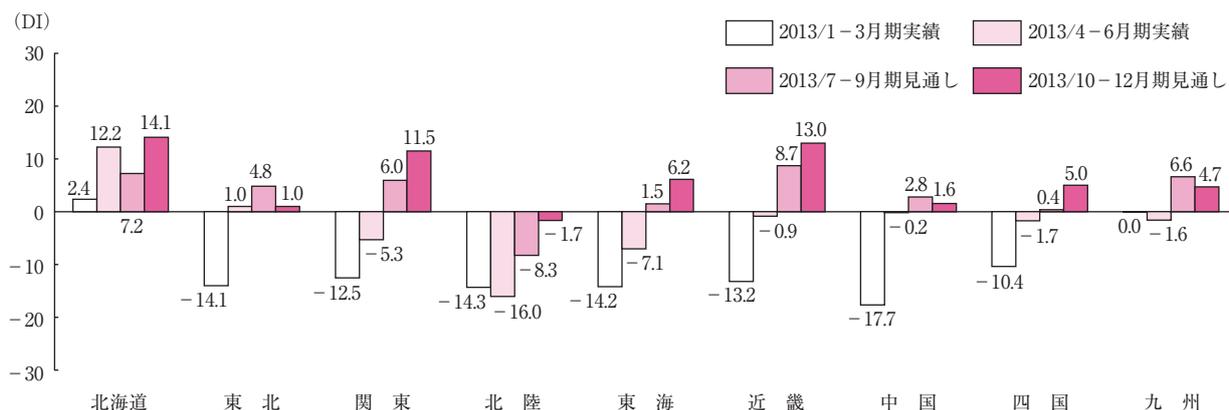
図表-2 業種別業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）



多くの地域で上昇、先行きも上昇の見通し

業況判断DIを地域別にみると、今期は北海道、東北、関東、東海、近畿、中国、四国の7地域で上昇しました。先行きについては8地域でプラス水準となる見通しです（図表-3）。

図表-3 地域別業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）

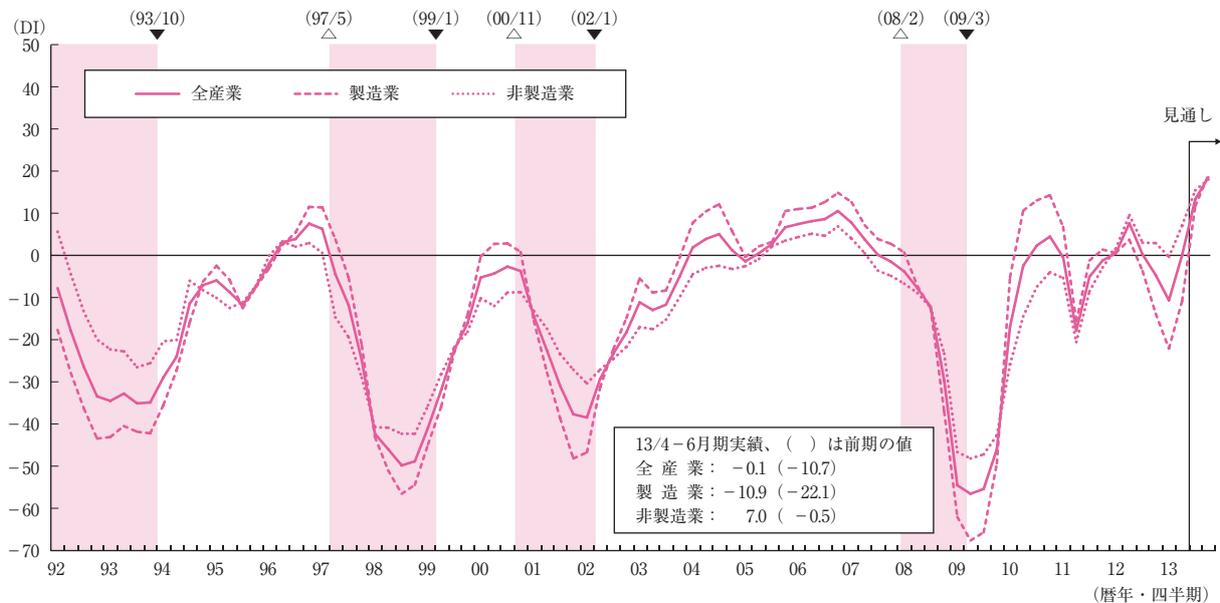


売上DIは非製造業でプラス水準に

今期の売上DI（全産業）は前期から10.6ポイント上昇し、-0.1となりました（図表-4）。上昇は4期ぶりです。業種別にみると、製造業は前期から11.2ポイント上昇し-10.9に、非製造業は7.5ポイント上昇し7.0となりました。

先行きについてみると、製造業、非製造業ともに上昇し、そろってプラス水準となる見通しです。

図表-4 売上DIの推移（前年同期比で「増加」-「減少」企業割合、季節調整値）

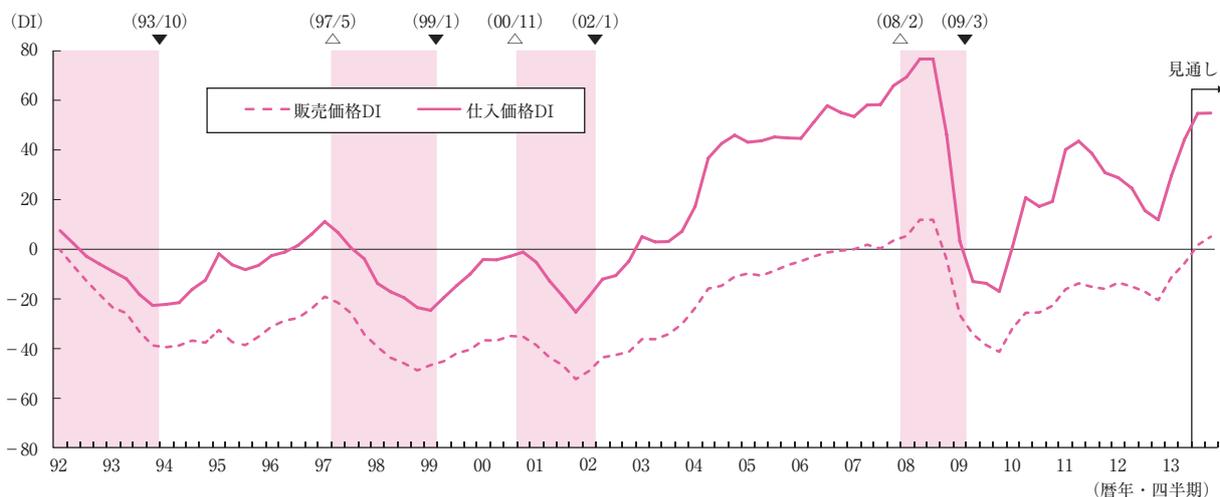


価格関連DIはいずれも2期連続の上昇

今期の価格関連のDI（全産業）についてみると、仕入価格DIは前期から14.7ポイント上昇し44.1となりました（図表-5）。円安に伴う原材料高などから2期連続で上昇しており、来期も上昇が続く見通しです。

販売価格DIは前期から5.7ポイント上昇し-5.8となりました。こちらも2期連続の上昇ですが、依然としてマイナス水準にあり、販売価格DIと仕入価格DIの差は拡大しています。

図表-5 販売価格DIと仕入価格DIの推移（いずれも前年同期比で「上昇」-「低下」企業割合、原数値）

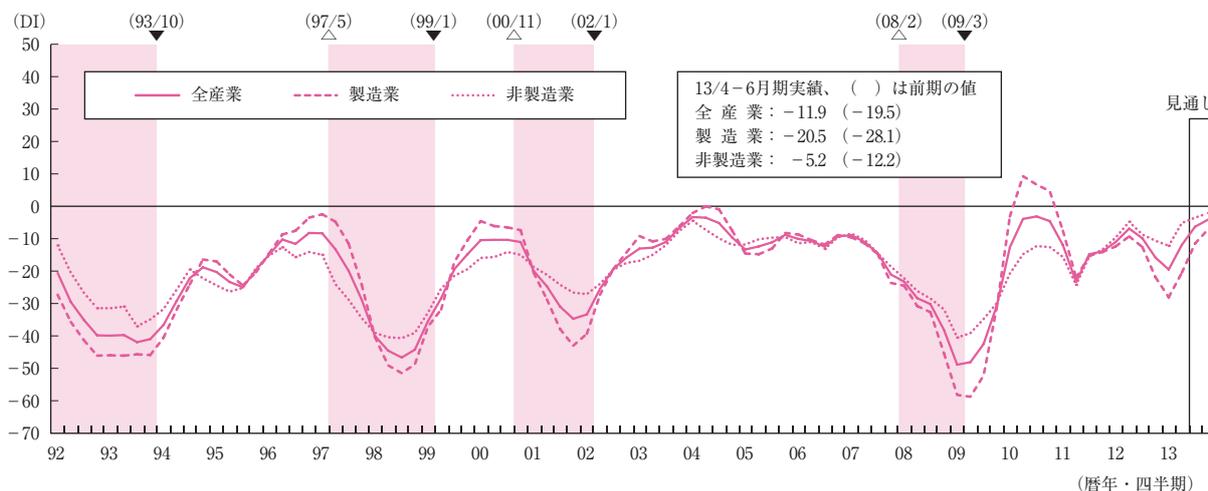


純益率 DI は依然マイナス水準

今期の純益率 DI（全産業）は前期から 7.6 ポイント上昇し -11.9 となりました（図表-6）。上昇は 4 期ぶりです。製造業は前期から 7.6 ポイント上昇し -20.5 に、非製造業は 7.0 ポイント上昇し -5.2 となりました。

先行きについても上昇し、全産業で来期は -6.3 に、来々期は -4.1 になる見通しです。

図表-6 純益率 DI の推移（前年同期比、「増加」-「減少」企業割合、季節調整値）



「原材料高」「求人難」が上昇

当面の経営上の問題点については、「売上・受注の停滞、減少」が依然第 1 位ですが、その割合は低下してきています（図表-7）。一方、「原材料高」と回答した企業の割合が 1.0 ポイント上昇し 17.1% となりました。また、建設業などで続く人手不足を受けて「求人難」の割合も 8.7% と上昇しています。

中小企業の景況は、非製造業がけん引する形で持ち直しの動きがみられます。今後は、製造業、なかでも足元ではまだ低調な金属・機械関連の業種などで一段の持ち直しが期待されるようです。
(渡辺 綱介)

図表-7 当面の経営上の問題点



「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ~ホームページ <http://www.jfc.go.jp/> ~